



現代日本と新體制の意義 (要約)

本學講師 石川興 二

昨年十二月一日昭和十五年度校友總會の後をうけて第二回月例講演會として委嘱した石川興二氏講演の大要を概記したものであります。その點記事一切の責は當方にある事勿論です。(編輯部)

現代日本の危機と新體制の建設といふ題を掲げたのであります。實は私はいふ題目を掲げるやうになりましたのは十一月の十日、十一日の記念の式典に参列した後であります。(中略) 實は十日の日に我々式典に於て私の席に非常に力強い玉音が響いて参りました時これは私等の豫期にしなかつたお力強いものであります。而もそのお言葉を拜しますと、今や世局ノ激變ハ實ニ國運隆替ノ由リテ以テ判カル、所ナリといふお言葉が響いて参つたのであります。これは大變な事だと私は思つたのであります。併しこの御言葉が一體國民に分るのか知らん、これは又私には大變な問題になつたのであります、現代の日本の状態では私は國民の大部分に向つて何故陛下がお祝の式の時にこの重大聲明をなされたのであるかといふ事を會得出來

ない氣持で居つたのであります。この意味を拜しまして、云ひ換へて申しますれば、日本海々戰に於て東郷平八郎が「皇國ノ興廢此一戰ニアリ……」と同じ表現が意味の中にあると思ふのであります。

このことは國民にその儘響くならばこれは大變結構な事でありますが、若しこの御言葉が國民がそうであるといふ風に直ぐ拜することが出來ないのであるならばこの原因はどこにあつたか、其は聲明致します事實を國民に隱蔽する現代日本である、これが最も悲しむべき事實であると思ふのであります。(中略) この前精勤の人が精神總動員はどうして出來るかといふ質問を我々に聞いたのであります、私「そんな事は簡單だ、今の日本の現状をありの儘仰しやれば國民は起つたと云つても起上る若し事實を知らさずして起てくといつても誰が起つか」かう私は答へたのであります。その時「國民に事實を聞かすならば、國民は誤解をするだらう」といふ、これは大きな間違だ。日本の國家——日本の國民にとつてはこの家以外にい

大正十一年六月十五日創刊
昭和十六年二月十日印刷
昭和十六年二月十五日發行
發行所 大阪市北區堂島
上三丁目十五番地
甲別所 谷口印刷所
大正市東區川島長柄
中通二丁目十二番地
發行所 關西大學學務局

第一八七併號要目

現代日本と新體制の意義……………	石川興二……………(一)
山西省の産業……………	(三)
日本地政學綱領と臺灣の地位……………	(六)
典籍往來……………	中村長之助……………(九)
學内報……………	來島志朗……………(三)
校友會報……………	(三)
戰線だより……………	(三)
會員消息……………	(四)

家はないのである。(中略)ですからこの家が危いんだと聞けば起たざるを得ない。然し國民に知らせる事は外國に聞えるこれが相當日本に不利だと思ふ。處が外國の新聞雜誌は日本の軍事・外交或は財政・經濟の情勢を聞きに來てゐるのではないか、今さら聞かなくても蔣介石は一切知つて居りますよ。この日本は實に危い日本であります。今傾きつゝある家です。胡亂化して事實を國民に陰蔽して居る。これ程大きな危険はないと思ふのであります。(中略) 私が板垣參謀長に會ひました時日本の現地の分裂してをるのはどういふ状態か、其は「それ〴〵地方的な部分的なものに於ける指導階級が利己的だ。だから日本の内地は分裂してゐるその指導者階級を教育する貴兄方が個人主義的に教育するのじやないか。その縮圖だと云はれた。これが日本の第一線に於てやはり問題があるのであります。共產軍は社會主義で、國民軍は三民主義で以て戰つてゐる。日本軍は何の人生觀を以て戰つてをるか。これが一つの問題になつたのであります。我々の教へた人々が幹部になつて居りますが相當卒直な事を我々に云つてもらつたのであります。歸つて間もなくあの板垣聲明が出たのであります。あれを御覽になれば良くわかるのであります。かうした日本の八方行詰は至る處に出て來たのであります。(中略)

併しこれはこれによいとして最も大切な事はこの八方築りの事實を日本人が知つてくれるといふことが大切であります。處が知らないのではありません。陛下はこの御言葉をこの席上に於て力強くお読み上げになつたのであります。陛下の非常な御軫念が現はれてゐる、これは勿體ない限りであると拜したのであります。日獨伊軍事條約によつて日本が東亞共榮圏の主人公として認められた今日汪政権と條約の締結されるとまると情勢がよくつたやうに申します。これはそんな意味ぢやないと思ひます。逆の意味であると思ひます。蔣政権に對して事がならなかつたといふ意味がそこに出て來るのであると思ひます。行詰つてゐるといふ事を知らない國民全體に對して國民的支拂を叫ばれてゐる。私これは最も大きな危機を感ずるのであります。陛下の御氣持は「國運隆替ノ由リテ以テ判カル、所ナリ」といふ、陛下御自身の御軫念を國民も君臣一體知るべき事を要求してお出でになるのだと思ひます。

日本にも一つ憂ふべきことがあります。これは何であるか。日本の心配すべき事はこれは日本の歴史的發展で、日本の有史以來の状態を考へて見ると分る。明治維新に於て日清日露の戰爭に於て日本の經濟力はどうであつたか軍備はどうか、その間の状態を比較すると現代と較べものにならない程貧弱だ。而も明治維新に於ては東洋の總ての國が白人の植民地であつたに拘らず、日本だけ白人の毒牙より脱して來たのであります。これは經濟の力か、軍備の力か。然らず、人の和であります。中略一人の和こそ萬世一系の日本の國體の最も大切な力であります。これが發揮し得たためあの難關を突破して今日に至つたのであります。然るに今日の状態はこれにも増して世界的非常であります。今英米の遣りつゝある事は何かと申しますとこれは日本を包圍する事であつて着々進めて行くといふ状態であります。日本を憂ふる者は誰れもこの悲境

に陥りつゝある日本に向つて晏如として居れますか、然もこれらの事實を卒直に知らせない。現代日本は決して一人前の總つた日本ではないのであります。この事を全般的に見渡し得る地位から近衛公は眺め、本當に心配して居られるだらうと思ふのであります。先程拜しましたその次に「今や世局ノ激變ハ實ニ國運隆替ノ由リテ以テ判カル、所ナリ爾臣民其レ古ク繼ニ降ダシシ……」と仰せられたのであります。この御諭しの御言葉は何であるか、その御心を拜するならばそこには「爾臣民宜シク思ヒテ神武天皇ノ創業ニ馳セ皇國ノ宏遠ニシテ皇護ノ雄渾ナルヲ念ヒ……」その中に陛下の本當の御軫念であると拜するのであります。「和衷戮力益々國體ノ精華ヲ發揮シ……」と仰せられ「今や非常ノ世局ニ際シ斯ノ紀元ノ佳節ニ當リ」と仰せられた、これはお祝ひに云はれる言葉か御心配の言葉か、臣民たる者は實に思ひを深くするのであります。紀元の佳節に當つて「和衷戮力」と申された、これは陛下並びに陛下のお側近のこの日本の情勢を本當に知つて居られるそれらの方々によつてこのお言葉が生れるといふ事は一體何であるか。若し一家の家に於て兄弟が仲良くして居れば、親はこれ程繰返し繰返し仲よくせよ／＼と仰せられないのであります。この世界的非常時に於て國民大多數はこれを知らず、兄弟喧嘩をやつて居る。私は歴史上これ程危険な日本はなかつたと思ひます。この不幸者の子供達我々は、これはその儘では濟されないであります。

今日日本の國內の態勢は何であるか。これは全く國內を忘れたものであります。日本國內の忘れ方の激しさはこれは第一次世界大戦の非常時から始まつたと思ふのであります。そこに現はれて來たのがマルクス青年であります。マルクス青年は大戰後資本主義がぶつ倒れつゝあつた時、社會主義革命を學ばんとしたのであります。フランス革命を機會として資本主義社會に

對して人類を解放する途は階級革命であると主張したのがマルクス主義であります。當時の學者は、この人間の學問に對する命題を恰も自然科學の命題の如く考へたのであります。これは實に愚かな事でありました。當時の日本といふものもこの國體の忘却といふ點に於て正に意外な方向に今度は展開したのであります。これは御承知の如く滿洲事變であります。滿洲事變に於て今まで英國の眞似をしてゐた資本家、ロシアの眞似をしてゐた青年は今度はそうでなく我々は日本人であると云ひ出した、これは何かといふと即ち全體主義者であります。私非常にそれに憤慨したのであります。近衛首相のあの聲明は相當複雑なものであり、學問的に考へてもあれ位立派な立場は展開して参りませぬ。今日あれだけの立場を理解するものはありませぬ。八月二十八日の夕刊に載つて居りましたあの聲明書を見ても所謂全體主義といふものは如何なるものであるかといふことを學問的に證明したとしては實によく出來て居ります。

あの聲明の積極的な意味は何處にあるか。これはあの陛下の御言葉でつきると思ふのであります。これは先程から度々拜しました「和衷戮力益々國體ノ精華ヲ發揮シ……」と仰せられたこれだけであります。これを近衛公は承繼がれて、經濟・政治・教育・文化あらゆる國民生活の領域に於ける新體制の確立の要請がこゝにあるのであります。同時に新體制の基礎をなすものは所謂萬民翼賛であり國民組織であると解して居ります。何でも彼でも新體制といふ言葉を使ふのは亂暴至極であります。日本の新體制は誠の體制なりと考へなければ駄目です。歴史始まつて二千六百年君臣一體を國體の原理にとした、これが日本の誠の體制であります。日本の國體の機構は誠の體制であるといふにつきてあります。(下略)

記聞見征出

業産の省西山

夫秀西小

(年經一第 12 昭)

北支の産業とか經濟とか云つても正確なる統計資料も持ち合さず、その上學者間でも中々の難事とされてをり而も現在一部では未だ戦闘が行はれてゐるかと思へば、他方ではその收拾と極めて困難である。而も山西の僻地でプライベートな時間の極めて少ない一兵士であつた私が僅かの調査、見聞を此處に披瀝する事は全く恥しい事とは充分自覚してゐるけれど、恩師和田豊二教授が私の在營中並に出征間に於て種々御高配を賜つた事への謝恩の意味に於て厚顔にて筆を執つた次第で、又私と同様彼地方の産業に對し關心を持たれる人々の爲に何かと御参考になればと考へたからである。

山西省の概要

山西とは支那本土の東北に當り北支（私は臨時政府當時の管下に在つた河北・山東・山西・河南の各省を以て北支とす）の西端に位置し、面積一六萬平方料で朝鮮より稍小であり、人口約一千二百萬、百五縣の行政區劃に分かれ、大同は省政府の所在地である。今、朝鮮とその緯度線を比較すれば次の如くである。

大同——新義州（北緯約四十度）

太原——京城

蒲州——釜山（北緯約三十五度）

省城は太行山脈其他の山岳に圍繞せられ西は黃河に依り中原と隔絶し天然の要塞を成してゐる。省内は山地が極めて多く中央を南北に貫流する汾河並に其の上流河川の流域には若干の高原性の平地が在る。太原平地の標高は約千米で氣候は一年中の最高氣温三十九度、最低零下二十七度で寒暑の差も相當に激しく大陸性で夜間は温度が降下するを常とする。乍併臨汾平地及びその以南は私の短期の體験ではあるが極めて氣候好く、雨量少く空氣が乾燥して天氣も澄み、誠に住み良く思はれた。然し水質は何處へ行つても鹽水又は石灰分を含む硬水であるが、是も文化工作が進捗し水道施設でも完備すれば改善されよう。

山西は歴史的には堯舜の都した地であり、古くより文化の發祥地であつたが以上の様な地理的關係で其後文化は普及せず、經濟は發達せず土民の生活の如きは見るから憫である。由來山西は農業牧畜を以て主要産業として住民の八割以上は農民であつて、幾多の工業資源に恵まれ乍ら重工業らしいものは殆どなく僅かに紡績會社等の稍々規模の見るべきものがある程度に過ぎない。

山西省の實權者だつた閻錫山は執政以來「山西モンロー主義」を高調し、産業教育、行政、財政等あらゆる部門にその調整發達を期したため相當發達した自動車道路と鐵道敷設とを見る事が出来る。此の様に一時は經濟力を充實した模範者閻錫山は幾何もなく京津地方への野心を起し民國十五年（昭和二年）の奉國戰、同十七年の北伐に参加せしめた其の途上にあつた文化經濟は凡て破壊せられ住民は著しく疲弊し怨嗟の聲を聞くに至り、漸やく民意が閻政權より離れた頃、日支事變が突發するに至つたのである。

山西省の地下資源

山西省に於ける地下資源の豊富なることは事變前より注目されてゐたものであるが、その大半は石炭で鐵が之に次ぎ天然曹達、鹽、硫黃、石膏、硝石、石綿等である。

石炭

推定埋藏量は千二百七十億噸だから到る處石炭が埋藏されてゐると考へても差支へない、内地、朝鮮、樺太の總埋藏量百九十億噸と比較して見るとその程度が諒解出來やう。出征中に認めた炭田を略記すると

平孟潞澤州炭田——太行山脈一帶の陽曲東山以南、山西東南の晋城に至る二十三縣地方で此の地區は全省の約四分の一を占め埋藏量五百億噸と稱せられてゐる。

汾臨炭田——汾河以西呂梁山脈の南半分一帶と汾陽以南では更に西南黃河沿岸の鄉寧に至る地方を含む十三縣に亘る地域で埋藏量約三百餘億噸と云はれる
太平西山炭田——太原西山一帶の陽曲以西五縣の地域とその西北靜樂縣の一部を含み埋藏量八十餘億噸
其内三十餘億噸は無煙炭で有煙炭はコークスに適してゐる。

大同炭田——大同より西南朔縣に至る地方で九十億噸埋藏と云はれてゐる。

渾五炭田——省東北部の渾源五臺間河北省境一帶の五縣に渉る地方に散在する小炭坑の總稱であつて、埋藏量は約八十億噸である。

此の様に大きな資源も交通不便と採掘法未だ舊式の炭を脱して居らぬため、事變前の採炭量を見ても有煙炭百五十餘萬噸、無煙炭百餘萬噸と概算され、省外への移出されたものは約百萬噸四百萬圓見當の僅少額である。

採炭會社の代表的なものを掲げて置く(民國地理誌に依る)

社名	所在地	資本金	採炭量
保晉礦公司(平定)		三百萬元	二九萬噸
晉北礦務局(大同)		百萬元	二五萬噸
建昌煤礦公司(平定)		百萬元	二〇萬噸
同寶煤礦公司(懷仁)		六〇萬元	一五萬噸

こゝで炭質に就て論じよう。陽泉附近の極上無煙炭は大塊でカロリーも相當高く各種工場、發電所用として又家庭用として最適である。臨汾炭山のものとはタール分が極めて多量の如くで特に液體燃料資源として無盡蔵とも云ふべきこの山西の開発利用に就て大いに努力研究すれば將來性は多分にある。

鐵 山西の鐵埋藏量は三千萬噸と稱せられ、全支の一割に相當してゐる。産地は平定、晉城、高平、長治、和順を主とし五臺、曲陽其他致る處に産してゐる。採掘法は土法に依るものが多く、新式の施設に依るものは平定の保晉鐵廠があるが資本金七十萬元、年産三萬噸で未だ技術も幼稚で試験時代を脱しない程度である。全省の鐵鋼産額も約十萬噸に過ぎない状態であるが、鐵礦は各地に豊富であり、石炭もまた到る所に得られるから製鐵企業には最も好條件を備へてゐる。交通機關の發達と技術の充實とに依つて將來有望な事業となることは申すまでもない。

河東鹽に就いて

山西省南部、中條山脈が黃河に接し東西に走るところその北麓に沿ひ東は安邑より西は解縣に至る約二十軒中四軒の鹽地が所謂河東鹽の産地である。私もこの

中心地で比較的新しい街に長期駐留してゐたが、この鹽地は中條山脈と運城平地とに狭まれた窪地で、丁度釜底様な上縁に周圍七十餘軒の高い土堤を設けて無斷の搬出を防止してゐる。

鹽は湖水より採るのではなく井戸を設け、地下から汲み取つて天日製鹽の方法に依つて採鹽する。鹽地は東、中、西の三場に區分され鹽田は内地の海岸にある様な井然としたものではなく區々で、平均五、八町歩(日本の單位)で各鹽田は十八坪位に區切られその中に深さ約十米、水深概ね二、三米位の井戸二本を設けてゐる。汲上は舊式のロクロ式釣瓶に依り各畔に送水乾溜せしめるので、天候などの關係で



部一の地鹽城運

數日乃至十日を要して鹽となる。私より一年後輩の法科卒の淺木君が偶然にも此の鹽地の主として勤務し、敗殘兵の出沒する中で五百名近くの中國人を指揮して奮闘してゐるのに會つたので、此の地に就いて充分検討することが出来たのである。

「生産の時期は六月―九月の候であつて日照と氣温の高低により生産高も相當増減があるが、民國二十五年調に依ると百萬擔以上に達してゐる。しかもし現地の貯藏も百五十萬擔と稱せられる」といふ。(淺木君談)

河東鹽の品質は海鹽よりも良質で、品質の優劣に依り上、中、下の等級に區分し販賣價格も相當の差が生じてゐる鹽稅は品質の如何に拘らず一人當り(三萬斤即ち三百擔)に付き七五〇元を徵收してゐる様で鹽稅總額も毎年七百五六萬圓に達してゐる。

製鹽は坐商といふ者の私營で事變前は全地に三十五の業者が在つた。販賣は運商といふ鹽問屋がやつてをり價格は鹽稅と共に鹽務局で決定し品質、生産年に依り相當の差異があるが品質良好なるもの、最近の價格は一名に付き庭相場二百餘元であるから一斤一錢以下で生産される事に成る。然し鹽稅を加へ小賣店鹽店に移る間に相當高くなり、正確なる小賣相場は詳かでないが解縣附近では一元に付き十二三斤内外であつた。

河東鹽の販路は従來陝西省河南省並に山西省に對し生産量の約三分の一宛を鹽商の手を経て鐵道又は驢馬等で運搬されてゐた。住民の言に依ると一ヶ年の販賣高は山西、陝西各三十萬擔、河南省方面四十萬擔と稱されてゐる。

産鹽の沿革は悠久數千年に及ぶものであつて附近には鹽地に關する幾多の史蹟がある。河東鹽の起源は秦漢時代に河東郡に隸屬してゐた關係上生れたものと云はれるが、幾多の興廢を残した河東鹽も最近河南省で

は長慮慮の漫入、陝西省では渭河灘及び朝邑縣産出の硝鹽の激烈なる競争に加ふるに西場一帯が次第に枯渇して來た等の關係で現在は好況とは云ひ難いが然し將來製鹽技術に改善を加へたならば從來以上の産額も増加し得るものと思ふ。

河東鹽の採鹽の副産物として芒硝が産出される。是は從來製鹽の際不純物として厄介物とされたためたもので自然結晶しつゝ次第に濃度を増してゐる。現在芒硝の貯藏量は四百二十萬噸と推定され、之に依り百八十萬噸の無水芒硝を製造することが出来る。無水芒硝は硝子及製紙工業に使用され現在は天津方面に相當需要があるやうである。

以上で大體鑛業方面の略述を終へた様に思ふが私の北支に於ける足跡を残した地方で將來科學力に依つて大いに有望と考へられる資源は、先づ聞喜附近には銅鑛があり、平定夏縣附近には石管を、安邑附近には硫黄を産出する、其他介休、靈石、壺關、黎城附近には石綿を平陸などにも石管を産出する。又士民の言によると山西省北部は陝西省の石油埋藏の一部を爲してゐると稱せられ陝西省の石油資源は非常に大なる如く傳へられてゐるが交通不便であり埋藏量などに就いても疑問の點が多いが探油量は僅少である。然し河津附近の鑛油脈の發見は見逃し得ない資源と考へる。

農業及び工業

山西省は全般的に山岳多く南方の汾河流域を除いては肥沃ではなく農業に適してゐるとは云ひ難い、然し本省に於ては山の上まで良く耕され、農民數も概ね全戸數の八〇%に當る。従て農産收穫の多寡は本省の全經濟に直接影響する重要性を有してゐる。耕地面積は

全面積の二三%に當り農家一戸當り面積は平均三十三畝位に成つてゐる。本省農産物の特異なるものとしては棉花であつて絳縣、曲沃、洪洞、新絳等の汾河の沿岸が主産地と成つてゐる。しかもこの年産額は約四十五萬擔にも達し北支の約一〇%に相當してゐる。其他の農産物は小麦、高粱、粟、玉蜀黍、大麥、豆類、馬鈴薯、煙草、米等を産出する。

本省は度々述べる如く交通不便である上に閻錫山の所謂山西モンロー主義に禍されて新知識の吸收に後れ近代機械工業の利用發達は天産資源の豊富なるに拘らず充分でなく舊式の手工業に依るものが多い。然し近代工業中此の地方で可能と見るべきものは、先づ纖維工業で山西省で最も發達したものと云ひ得る本省の紡績紡織工場數は二十にして資本金一千三百萬元である。その主なる工場を列擧して見る。

工場名	資本金	所在地
晋華紡織公司	五〇〇萬元	榆次
大益成紡織公司	三〇〇萬元	新絳
晋生織染工廠	一〇〇萬元	太原
雲務織染公司	一〇〇萬元	新絳

等であつて今次の事變で何れも皇軍の占領地となり皇軍が管理して特務部又は特務機關が指導して夫々内地業者が進出し操業してゐるが我が國の如き整備した大工場には比較し得ない。

次に製粉工業であるが小麦粉を主食とする支那人に取つては當然の事であつて少し大きな都邑には必ず此の工場がある。近代的な製粉工場は十會社程あるが、資本金は百萬元位で年産高は九十五萬袋（民國二十五年調）と稱せられてをり、その中でも有名なものは、太原に在る晋豐麵粉公司等である。是等の工場も大部分は紡績工場同様我が軍の管理下に營業を行つてゐる。燐寸工業も相當の程度に發達して居るが我が國の様

な優秀なものではなく工場數も五工場程在つた様に記憶してゐる。其他製紙工場が太原に一つあり又酒造工業は高粱酒の製造を主としてゐる。最近は葡萄酒の製造も開始して居り、汾陽、清源等は新式機械工場が出來てゐる。是等の酒類も大部利用されてゐるが吾々としては嗜好に適しない様である。

以上山西の産業の一部を述べたが再讀すると各所に不充分の點が多々あり、内容に至つては貧困極まりないので御參考になるやも疑はれ、今更の如く汗顔するのである、擱筆に當り東亞建設の「礎」にとなられた忠勇なる殉國將士の英靈に對し萬腔の感謝を爲すと共に其の冥福を祈り遺族の御安泰を祈願する。

これは筆者の寄せられた「北支就中山西省の産業狀況」の中紙面の都合で山西省のみ載録致しました。この點色々不備もありますが、筆者兼に讀者の諒とせられん事を御願ひします。編輯部



日本地政學綱領と臺灣の地位

教授 中村良之助

此標題の下に、臺灣の地域に就いての科學的諒解を遂げやうといふのである。邦家の具體的基礎、又は日本人生活にとつて臺灣に對する綜合的把握は、凡そ次の様な

「臺灣の冬は温かからうか」|| 亞熱帶の景觀
「蕃地と蕃人に對する好奇」|| 本島人の現狀 || 生活環境

といふ如き平凡なる現實の在る姿を科學する事から始められねばならぬ。

蕃地 (蕃地? 鐵地)

内地に居て、郊外在住の友人を探ねて、最困るのはバンチ(蕃地)であらう。若し日暮れでもあらうなら全く以て鐵地に履込んだ事を痛感する。

バンチは蕃地でも、高砂族の住居は高貴幽邃の地、其景觀の美は「次高タロコ」「新高阿里山」の二大國立公園によつて代表されてゐる。かつてスペイン船員が本島の美形に嘆聲を發したが其「イラ・フォルモサ」の語は其後永く臺灣に冠せられた。此臺灣の中央大山脈は夫れを通過する雨雲と風を誘つて、月日潭及び其他の河川の水源たらしめる役割をつとめる。樟檜の鬱蒼たる森林も、遙かなる山裾、臺灣全島の平野をうるほす水位も、蓬萊米、甘蔗、鳳梨實る地味も凡ての源は此蕃界が永く自然にあつたからである。慄悍殺伐とかつて傳へられた蕃人。その古い姿は福老(福建渡來人)客人(廣東渡來人)の入山禁止を意味するものであつて、即以て今日の豊かなる森林を我等に遺したも

ので臺灣の眞性は此蕃地に在ると断定しやう。但し住民たる高砂族の自意識は、次の如きものである。

環境と姿態

野蠻と見え、殺伐を唱へられたが臺灣政治上高砂族は、彼の領蒙當時暴威を揮ひ、皇土の平安を破つた土匪と混同してはならぬ。明末清初の福建人の渡來に依りて、其遺風と自律を守る逃場として深山幽谷に隠れ住み、爲めに、現代文明は勿論、他種族との交渉すら絶えて、當初の原始的な生活に沈淪したのである。此點に臺灣の原始と自然を思ふべく、渡來漢人の血縁には彼の蕃の夫れが秘み、世代の交替によつて本島人として平地臺灣の人文を色彩付けるに至つてゐる。種族の本性に徴し外界文化に盲目たりし蕃は我特別行政治下に手厚い保護と指導を得るや、日本文化の惠澤に其遺風と自律から自らの「蠻」なるものを清算したのである

昭和八年新高南麓のブヌン族二百餘名の歸順を最後に臺灣に蕃の跡は絶えたのである。蕃地の面積は一萬六千餘方料、即全島の四割五歩の地を住地とする高砂族(全人口約十六萬)の存在は其面積の量に於いて、且前記山岳の地位から臺灣にとつて今後は重視されるべきものであらう。臺灣文化の絢爛は平野に求めやうとも、其淵源は山岳に依る。圖南の計に將又經驗に就いて我理蕃政策の地位は斯くの如く觀る時に其價值は遙かに上昇しやう。

彼等の内にも醫者、看護婦たる者あり青年團が組織され、赤十字、愛國婦人會員たる者あり、アミ族(東

部海岸地方)の如く、一般行政下に編入せられ、貢税を喜びつゝある現狀は吾人をして其將來を囑望せしめるのである。次の記録は此の如き斟酌を持つて讀まれねばならぬと思ふ。

高砂族の衣食

衣食住は、各種族を通じて極めて簡素である。生活用の物資は、食糧、燐寸等を除く外は、概ね自産自給である。衣服は布として自製の麻布で造り、又毛皮をそのまま使ふ者もあるが、近年は内地製の木綿を使ふ者が多くなつた。食物は粟、黍、薯蕷の類を主とし、山間から狩獵の獲物や、溪流から釣の獲物を焼いて之を食し、近來は米食をなす者も少なくない。家屋の構造は、地方に依つて異なるも、普通茅葺又は竹葺で、ブヌン、パイワン兩族は多く石磐石を以て造り、内部は大抵土間で、其の四隅に寢床を造り其間適當の箇處に爐を築き家屋の一部又は之に隣接して、穀物や薪を置く倉庫を築くのが通例である。然し近來は通風、採光共に良好な内地式家屋に改める者が漸次増加して來た。

風俗習慣

高砂族の性情は概して粗野、慄悍、殺伐で、智能低く、理智的生活は甚だ困難とするところであるが、其の一面には信義に厚く、朴訥純眞、然諾を重んずる等誠に愛すべきものがある。かの首狩の如きは、今や殆ど其の跡を絶つに至つたが、元來彼等の舊慣より觀れば決して之を罪惡視せず、寧ろ最も神聖なる祖先の遺訓として、遵奉し來つたものであつて他種族との接觸關係に依つて始めて生じた習慣ではないだけに、其の根底も深く、容易に斷絶し得なかつた所以である。

相續は大部分男系相續であるが、アミ族は絕對に女系相續である。アミ族の女戸主は一家の管理權を有

し、其の夫を何時離縁することも意の儘ではあるが、さりとて妾に夫に懸る者は少く概ね柔順である。パイワン族は男女に不拘長子相續制であるから、女戸主も少くない故に中には女頭目として、屈強なる蕃丁を頭使し、權勢を張つて居る者もある。

各種族を通じて一夫一婦制で女子は一般に貞操を重んじ、私通姦通等は稀である。婦女懷胎すればよく禁忌を守り概ね獸類の胎兒又は猿、山猫、豹、穿山甲等の肉は食せず夫其の他の家人も力めて言行を慎み、特に妊婦の附近に於ては凶事や卑猥なる談話をしない等相戒めるところである。妊婦は分娩する迄よく勞働し産後兩三日で勞働に従事し、且嬰兒保育上の智識が乏しいので其の死亡率は非常に高い。

著 社

(以上「臺灣旅行案内」抜)

屏東市から車中に舞ひ込む黃塵(注)に辟易し乍らサンチーモンの丘に降り立つた時には、そよる自然に抱懷される蕃社の環境がなつかしまれたものである。

註 臺南、高雄兩州の冬期は乾燥期である。下淡水溪の水も枯れ勝ちとは云へ中央山塊からの疏水灌漑溝又は各地の堀抜井水は百頃の耕作を可能ならしめる。此處に中央山塊が水源たるの偉大なる作用をなしたものである。

玉山山勢は其背に迫り、三百米の脚下の南溪から深々の水聲を聞く。蕃社の晝は静寂である。朝霧深き山里の自然兒は鷄鳴と共に山野に出稼いだのである。石瓦に土壁の家は整然と並びあたりには塵一つも無い清淨の聚落。これが蕃社なのである。オハヨーと至上の親愛の辭を與へて呉れる土まみれの兒女には今生の山界の自然との闘争に幸福あれとの祈念が自ら湧く。此地からの視察者の心をつげたいのは席に坐して手仕事にふける姥である。

「山嶺の清淨未開を求めて追はるゝ姿にあつたのはそれは昔の事、今や皇風は浴く汝等の太祖の地にすら及びつゝあるのを知るや」と。

烈々の南陽に答へる大武の蒼鬚(首髯一萬餘尺)打狗の原野を前に、胸底に遠く閩南の計案が浮ぶ、曰く、ホルネオ、曰くセレベス、曰くチモール、曰くバブア等南溟廣茅數千里に散る島々には未だ白人統治の甲斐も及ばぬ未開の蠻地が多いと聞くが、其罪は獨り土人の無爲に依るものであらうか。臺灣の地たるや之等の南洋諸島に接續し、同じく濕潤光熱の域にありて加之も改隸四十餘載にしての我が理蕃の此成功は抑々何に由來するのだらうか。

理蕃政策の過去

臺灣に和蘭人が占據した時代に宗教上から生蕃化育を圖つた様であるが、清國占領時代には清人は生存競争上生蕃を驅逐する事を専らとした。彼の日清媾和談判の際に當つて、李鴻章は

「臺灣には強悍なる潮惠、漳泉(福建廣東の諸地)の移民の外、島内十分の六餘の地方に占居する化外の民あり」と暗に其統治の至難事たるを告げ以て、日本の意向を諷さしめんとしたが、伊藤公は

「一度治權を我に譲られたる以上は其平和と秩序を保つは我政府の責任なり」と自ら治匪理蕃の期成を確言したのであつた。凡そ我れの臺灣領有の發端は歐米殖民政策に纏綿する所謂經濟的なる利得ではなかつた。改隸僅か二年、明治卅年撫臺署擴張案に就いて沖殖産部長は曰く

「蕃人を化育し、蕃地を開發するは抑々撫臺署の設立の目的なり。而して此目的を貫徹せんには須らく蕃人を綏撫し以て飽く迄化育教導の政策を施さざ

るべからざる事論を俟たぬ。惟ふに本島蕃人は之を人種上の本性に徴し、且つ世界各國の野蠻人に對比するも結局優に化育し得べき性を享有せる者なるを信するに足れり」

當時の悍猛標悍殆んど野蠻人に等しき彼等に對しても一度之れを皇國の領土と迎へては先づ自らの大理想を構へて、其人性を信するの大度量が覗はれるであらう。幼若民族を指導し東亞の開拓、以て其榮を計らんとする事は既に明らかなる所であらう。此撫と擧、人と地、生蕃と蕃地を合一に觀るの態度と其方策こそは實に世界植民政務上稀有の事に屬する事を我々は世界に誇り得る。由來英國はコロニアル・ポリシーの名に於いて南阿の資源に着目してはポリシア人を驅逐し、濠洲に於いて華僑の力に開明の緒を見出すや之を排斥する等等、幾多其名を騙つて經濟的帝國主義を恣しむゝにした事か。

臺灣理蕃政策の眞蒂は明治三十二年議會に於ける「生蕃に關しては恩威並ぶ布き漸次化育の域に達せしめんことを期する」との答辨に明らかであるが、更に前記沖殖産部長の「其所謂恩威併行の政策を行ふには、特に最慎重を加へ堅忍不拔の精神を以て一朝の怒は能く之を忍び寛嚴宜しきを制せんことは是又、彼等を統御する上に於いて片時も缺くべからざる用意なりとす」との決意に於いて其情愛、注意に於いて親子の間の如きを悟るであらう。此情愛に對して持地六三郎氏(元總督府參事官)は

「抑々彼等蕃人は吾人と數千年の懸隔ある者なり、文明人の思想感情と野蠻人の思想感情とは香壤の差違あるべきは復言を須ひず。世人往々恩威を説く、而かるに其恩といひ威と云ふも文明人の思想感情に訴へてなす所を云ふ。これ生蕃處置の未だ効果を見

ざる所以なり」

として、客觀的に蕃人の習性を分析し、獨斷的温情主義を戒めて、政策の科學性を確めんとした事は其窮極に地域と人を生かし蕃人との共榮を希求したもので又以て今日の東亞共榮圈の指導者たるの證左となし得よう。

現行理蕃政策

惟ふに東亞に滿つる十億の民に臨むには、此溫愛と情野を兼備したる政策、生活と倫理を汲む事によつて「各々所を得しむる」ものであらう。理蕃政策の秘鍵は此臺灣と生蕃てふ地人一如に觀じたる所にある。徒らに所謂經濟的資源にアセラズ、先づ臺灣を代表する蕃界の自然を相し、配するに其自然兎を以てし、共々我同胞と觀する日本獨目の地理觀をもつ理蕃官は自ら此内に在つての風土を實感したであらうし、生活する信念は自然に生きたる蕃人に共鳴を持つは必定の事である。如何となれば由來日本人は其郷土や環境の凡百のものの中に自己を發見しこれと共棲する長所を有するからである。臺灣に神を祀り、北滿に祖先の命を擴める一切の行動の自由さは隨所に生活を發見し、隨時に生命を生成するからである。極めて卑近には、箸と茶碗がフォークと洋皿に代りつゝ此豐蕪原瑞穂の國內に生活を喜びつゝある姿なのである。

此自然と當來の姿を契機する巧緻は隨時證明される。此私等のサンチーモン訪問の際には同社の蕃童が、正に反對に下界なる高雄見學に出發せんとして背負袋と一把の薪を各自が持つて一隊を編成してゐたのであつた。聞けば宿泊旅行の由。新興の港高雄に彼等を入るる宿は多々あるべく、況んや食事、燃料を支給するは易いのであるが、彼等のもつ俗界の慣ひを慮つての此旅裝、此處に文明人たる理蕃官の苦心

はあり、これが前記の自然と當來の契機に外ならぬのである。

内地人が臺灣と聞けば直ちに蕃地を知らんとし蕃人を見る態度が諒解されるであらうと共にそれが日本人の地理する心なのである。此處に清人には化外の民と寫つた意が別け得ると共に、李鴻章が第一に云ふた臺灣統治の難としての土匪なる姿が如何に觀せられたるかを知らう。前者に臺灣の風土を感得するを知らず、而して後者の對人鬭争に眩惑され終つたといふ事である。現に當時は密貿易場所乃至は惠潮漳泉の無頼の徒の逃避地であつた事を想起すれば足りやう。

日本人は今少し東亞を經倫するについて冷靜に歸へれ、八紘一字に徹せる自信と自認があれば、相手の驕言を超越して、自らの考ふる所、而して其趣く所に自然と當來の姿を想へばよろしい。人界の争鬭といふか、言論や觀念の争ひは後にして其れの發由する風土と、地域社會を考へる事だ恰も理蕃政策の發足の如く。

現行の理蕃政策要項

此の如き發足と經過を以て、臺灣の蕃地と高砂族は今に至つた。事變以來一層皇民化への歩調を速めてゐる事は喜ばしき限りである。左に昭和六年の理蕃大綱の二三箇條を摘記する。

- (一) 理蕃は蕃人を教化し其生活の安定を圖り、一視同仁の聖徳に浴せしむるを以て目的とす。
- (二) 理蕃は蕃人に對する正確なる理解(單なる知識では無い)と蕃人の實際生活を基礎として其方策を樹立すべし。
- (六) 理蕃關係者殊に現地に於ける警察官には沈着重厚なる精神的人物を用ひ、努めて之を優遇し漫りに其任地を變更せしむるが如き事無く人物中心主義を以て理蕃の効果を永遠に確保

するに努むべし。

臺北の街

内臺連絡三日の船旅は平凡なものだが、三日目位にどうやら亞熱帯らしい温さを喜ぶ位である。とまれ私の如く日も暮れて基隆の町へオッポリ出されては、そぞろなる旅情どころか轉た淋しさを感ずる。こんな情況では、臺北で元本學教授西村信雄兄(現台北帝大)に迎へられて仲々に嬉しかつた譯である。と共に臺北大學の岡田謙先生の切角御來方を有難く思ふ。翌日には松永氏(福州閩報館社長)が、中村法務局長(校友)に代つて來訪されたり仲々に旅先の御厚意はうれしく道にはぐれても大丈夫、友があるわい?といった安堵が湧いて、視察や其批判に落付きが出来た。翌日西村氏邸を訪れて共に臺灣神社に參詣した。基隆河を隔てて台北の町を望見し乍ら西村氏から着任以來の生活を聞いた。昨日からの私の臺灣所感を開陳する。

臺北―基隆間の印象が余りバツトせぬとは同感、だが今前に見る臺北の街と其沃野は内地も殆んど變らぬ程の姿で、河上を行くジャンクとアヒルの群によろやく台湾の影を追ふ位のものであつた。歸路バスを待つ人々の顔、日影をよける姿に亞熱帯の冬が思はずも著く感ぜられた。今は昔の渡歐の途に立ちよつた香港、シンガポールの面影が月明の台北公園のベンチに得られた事は「東南アジア」の地域の一脈の共通性が然らしめたのかも知れ無い。

翌早朝は環狀線廻りのバスで一巡と出かけた。通學する生徒、通勤のタイプライターガール、勞働者の出稼ぎ等乗つては降りる振舞に台北の町の朝が知られたし、朝霧の晴間から居並んだ住宅街とカサ高い野菜の青さとに南の外地の生活の大味な事が新聞といふ感じ

を併せて頭に浮かばせる。兒玉通だの新富町の州廳前だの東門市場だの云ふ女事掌の呼聲に、臺灣開拓の沿革史がニュース映畫ソックリに窓外をかすめる。台北の實感を此バスに拾つた事は何よりだつた。

高雄と安平

大きく把んで台灣といふ地域、特に甘蔗や米に縁を求めぬなら臺中以南である。國姓爺鄭成功によつて名高い安平は台南の外港となつて鹽田の間の運河にはジャンクがノドカに帆をふくらましてゐる。臺灣の語も當地に居住した蕃族名から發したもので十五世紀以來の事である。

「通航一覽唐國の部に長崎夜話を引いて我商民が臺灣で貿易した地點は北線尾でそこを塔伽沙古と唱へ實は高砂であると記してある。北線尾と云ふのは、中線尾と相對して稱せられた地點で、今の安平と臺南との間の砂堤を云ふのであるから、この説に従ふと高砂は安平を指す事となる。」

高砂國の考察 警原博士

典籍往來

來島志明

階級と集團

ハロルド・ラスキ教授の論文集

Taski, H. J.: The danger of being a gentleman and other essays. London, 1939. 2ed. 1940.

Georg Allan and Unwin,

著者ラスキ教授は現代英國の持つ傑れたる政治學者であり、同時にかの國言

これによると古い日本との關係も此邊から開かれてゐるし、其後海外の渡來者も多くは此地方を目指して集つたもので、此附近を通過してはじめて「臺灣らしき」が悟得出來ると云ふものである。だが此附近一帯には臺灣族(臺員)の外に遙かに優勢だつた打鼓族が居つた臺灣の南港とし今後を期待される高雄舊打狗は文字通り其名を遺してゐるので、これ等の地の見學は臺灣觀察の點睛となるであらう。同港の大阪商船會社支店には校友木下忠夫君が在勤せられる。

新南群島

西子灣の宿に陽は暮れて、脚下に寄する小波は遙かなる南方、八〇〇哩の地に散在する新南群島の問題を語つてくれる。南北七〇哩、東西二十餘哩に散在する

此島に迄も高雄市は延びてゐる。されば今し薄明に漁船の出で行くのは、何れの方向にや新南群島か澎湖島か。無線と燈臺の光と電波のみが行途を傳へてくれやう。

結び

私に渡臺の機を奨められたのは日本社會學會と岩崎先生である。大學學生課も新體制問題で多事だつたが暇は與へられた。誌中を借りて御禮をせやう。

米利加の著名なる法學者ホオムズ判事の八十九回誕生日祝賀の爲めに捧げた勞作等であるけれども、此中現今の吾々にとつて最も興味深いものは「民族主義と文明の將來」と題する論稿であらう。

私は今この論文に包含せらるゝ教授の論旨を捉へて民族主權の問題に一瞥を加へて見よう。

此論文は著者が一九三二年本書の發行所に依つて上梓されてゐる Century of Local Government 誌上に發表されたものであり、著者はこれを契機として、現

今の知識人一般が考へてゐる如く民族主權國家は平時に於ける文明の發展性と最早兩立し得なくなつたと斷じ、民族性と主權は別個の存在であり、又民族主權こそは我々の排除すべき眞の危険であると言ふ結論に到達してゐる。

教授は言ふ迄もなく理論的聯邦主義者に故らに左袒するものでもなく、人的感動の上に立つ民族性の力を無視しないし、且つこれを抹殺しようとするものが明らかに不可能事に屬することを知つてゐる。それが非要素的政治的附着物とし

て抱いてゐる所のものから解放しようとするに過ぎない。教授は民族性が人類本來的感情である事を充分知悉してゐるしそれは實に普遍的人類の性質に附着するものでなく、現代歐洲人は文藝復興後四世紀の歴史の生んだ子であると主張し、民族性の問題を此範疇の中に限定して考察するのである。

彼はかような立場から實際的には技術的創造としての民族主義を取扱ふに就て先づ經濟的決定論の係條を引出す、總ての戰爭は理論の問題としても、獲得の動機に依つて命令されたものでなければならぬ。それは政府の獲得でなく、且又國旗の蔭に隠された資本家の獲得であつてはならない。乍併、ラスキ教授は勿論、

補充軍曹は此分配の爲に否彼等自身の爲めにさへも戰ふ義勇兵を得ることは出来ないことを充分知つてゐる筈である。かくて著者は民族主義者の感情を刺激することに依つて攻撃的資本家が彼等の好戦性を獲得することを論證し、彼はこの唯一の方法こそ教育制度の改革を措いて他ならないと言ふ。集團は彼に依れば、彼等が働く眞の理由を了解することから妨げられることに依つて戦の裡に惹はされるに過ぎない。我々の歴史は總てこの幻影を維持することに努めて来た。(我々の歴史書を見よ。ホルソンの幹はペンタムのそれよりも大きい、自然の人心は資本家の鼓舞を除いても功利主義より以上の興味をもつてトラファルガルの海戦記録

を迎へる) 凡ての戰爭の動機は利益の動機として暴露された場合、凡ての魅力は愛國心から剝がれ去る。

かゝる假設に依つてすべての人々は彼等自身の爲めに資本家達に依つて取つて置かれた經濟的諸事實の完全なる了解が得られたであらう。それにも拘らず資本家は戰爭と言ふ手段に依つて彼等自身の經濟的利益を本能的に追求するであらうか? そうして無財の徒は同様のことを彼等資本家によつて啓發されることはいであるうか? 本論の書かれた後に於てフィンランドに於て惹起した或事實はこのことを最も雄辯に我々に示唆して餘りがある。

× ×

ジェキ・エス・ミルはかつて「統治の限界が主として國籍に合致する事は一般に自由制度の必要な状態である」と言つたことがあるが、それはバイロン、スインパン、メレヂヤス、及びブローウニングの好妙な韻律の地味な踏襲に過ぎない。

我々が今最も注目すべきは現在歴史の前面に既に出現しつゝある國家概念の法の柳よりの解放である。十六世紀に於て現代國際法學の萌芽を發見した巨大な思想家達はこれを豫想もしなかつたであろう。我々はウイクトリアの如き、乃至はソトウ、グロチウス等を讀んで彼等が如何に民族の勢力をそのまゝ彼國の諸權力に置換へんとする觀念を拒否する事に努力したかを知つてゐる。其諸證據は此態

度に對する反報として要求されはしなかつた。偉大なる英國の國際法學者ホールは「英國に於ては理想主義を追求する者はなかつた。その理想主義こそ紛争時に於ける國際法の否認はむしろ其反作用として國際法の權威を更新せんとする學者の努力を開始せしむる動機をば提供するとの主張そのものであつた。」かような彼の豫言は速かに現實化した。この傾向の世界化こそ最も期待すべきであり、我々はこゝでは國際法に於ける實證學派の没落を示唆するに止めよう。

國家主權に對する正面攻撃は近來汎ゆる國で行はれてゐる。これは我々に我々が制度的創造の偉大なエポックに到達してゐることを吾々自身に期待すべき諸理由を與ふるものである。吾人がこれを期待し、この到来を歓迎する眞實性を持つならば吾人の世界は人類史を二分する一大偉業を成就する事が出来る。吾々は一面に於てはその危険に對して安全地帯を捜し、他面方の原理を法の原理に置き換へようとしてゐる。現在の吾々の世界は紛争の永久的危険の中にあるが故に永久的な混乱の危険の裡にある。然し此等の危機こそ我々に再建の大業に愈々熱心ならしむる契機を與ふるものである。

昔、希臘の哲學者は言つた「凡ての物は集まつた、それが思想を生み、且つ秩序立てる迄」と。吾々は吾々の現在を認識し、吾々の問題を考へ盡さねばなら

ぬ。秩序立てた世界を建立する爲めに吾々は吾々の再生に必要な代價を支拂はねばならぬ。吾々は其仕事の困難さの爲めにその輝かしい利益の前に盲目となつてはならない。

谷川徹三著

東洋と西洋

ある歐米人は日本を「東洋に於ける西洋」と呼んだ、かように西洋文化は我々自身の生活に既に内在する血液となつてゐる。だが、こうして我々が受け容れた文化も、われわれ本来の歴史と傳統の上に立たねばならぬ筈である。しかもそれにも不拘、西洋からの移入物がわれわれの歴史や傳統の間に濺り、對立を作つてゐるのも事實であり、そこに直接われわれの生活自身の中に、東洋と西洋との對立が見られる。この對立に於ける東洋の意味を認めることは、東洋の過去に還へることでもなければ、又この反作用として西洋を斥けることでもない。われわれにとつて西洋は、われわれ自身に對立するものであるよりも、われわれ自身に對する最も重要な構成分子なのであり、これなくしては、われわれ自身の生活が考へられないし、またこれによつてわれわれは初めて東洋の諸國を指導することが出来るのである。文化は文化たる本質によつて常に普遍性を内在させてゐる。文化が如何に民

族的なものを母胎として生れようとも、そこに内在する普遍的なものによつて文化は文化となるのである。だがわれわれが數千年の島國居住によつて作り上げた文化には幾多の尊いものがあると同時に愚劣なものがある。眞に文化の名に似しないその愚劣なものをも、われわれの文化として主張する必要はない。われわれが自己を批判するのはわれわれ自身を強化するためである。

或日本人は歐米人の日本に關する無知を叫ぶ。然しこの何よりの理由はわれわれが彼等にかつて何物をも與へたことがないからである。われわれは今日未だ東洋と言ふ統一體をもつてゐないが、若しこれがありとすればそれは日本を措いて他にはない。東洋が新しい意味をもつて蘇るものならば、日本に於けるその東洋を通さずしては不可能であらう。

然し今はもうヨーロッパが世界ではない、將來の世界は世界のそれではない、ならぬ。こゝに新しい東洋の意味とそれからこの新しい東洋の指導者たる日本の意味がある。

谷川さんは二年ばかり前に中央公論誌上でこんなことを言はれたことがあつた。(昭和十三年十一月號)これはその儘東洋と西洋(一)としてこのエッセイの冒頭に掲げられてゐる。

× ×

「東洋と西洋」の第二はマルコ・ポーロの冒険と題する映畫に筆が起されてゐる。谷川さんはこの映畫に現れる鐵砲と大砲の發明が戰術を一變させたばかりでなく、それはヨーロッパの封建制度の崩壊と更にその鐵砲の日本への傳來は日本の群雄割據をさへ終熄させ、信長の覇業を成就させたと言ひ、この火藥に大きな文化的意義を與へて居られる。この時代に東洋にころがつてゐた黒い石として珍重せられた石炭についてもそれが文明の進路に對して決定的な意味をもつことになつたことこそ重要である。われわれの祖父達はこれを事實と直覺によつて掴み、認識した。そこに日本人の西洋崇拜の源がある。

しかし八雲はこの精神の基礎に日本の偉大なその後の發展の中に生きる傳統の精神を強調し、西洋文化の吸收、同化の中で日本の舊道德の運命を反省し日本の古い心は徐々に失はれて行くことを彼は歴史的必然として承認してゐるとし、今日の世界がその上に動いてゐるのはまさにこの科學と技術の文明である。今日もなほその認識の持つ重要性は失はれてゐないと言はれる。

「東洋と西洋」の第三は滿洲に於ける著者の講演の速記であるが、氏はこゝに於て東洋と西洋の歴史的交流を説き、支那自身の内部抗争として南支那の農耕民と北方遊牧民の争が支那四千年の歴史を形造つてゐる點を指摘して居られる、こうして筆者の「東洋と西洋」(一)及び

「東洋と西洋」の第二はマルコ・ポーロの冒険と題する以上三題の外、第二編

(二)の前提の下に惹起した日露戰爭に對する歐人の批判の一節に包含される痛烈な批判を掲げる。曰く

「日本の陸海軍はヨーロッパ的な訓練と技術を見事滿洲と日本海に於て撃破してゐる。やがてわれわれは危険が自分達をおびやかしてゐることに氣付くだろう。若し實際さういふ危険があるとしたら、それは誰が作つたのであらう。日本人がロシア人を相手に探して來たものでもなく、又黃人が白人を追つて來たものでもない。われわれは今に黃禍を發見するであらう、アジア人は多年の間白禍を経験してゐた。白禍を生み出したものはわれわれだ。そしてこの白禍が黃禍を生んだのだ」

と。こうした個人的反省はあるが、現在の問題の困難さは民族の原初衝動、國家の政治意思、文化圏の文化エネルギーはこの個人の反省を超越してゐる點にある。谷川さんはこうした力と力の角逐を世界史的立場から眺め、現在の事態は常に過去の發展であると同時に未來への方向を指示し、可能はその指示する未來への方向にある。われわれはその可能としての新しい東洋を心に描くことが出来るが、かような東洋の姿こそ現在の東洋と西洋との問題の中核をなすものである、と結ばれてゐる。

× ×

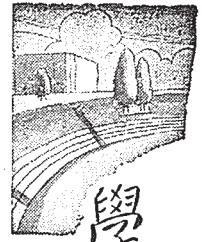
こうして著者は本書の表題とした東洋と西洋と題する以上の三題の外、第二編

に日本論とも言ふべき四つのエッセイを収め、第三編に日支文化と訓練に關する同じく七編を、第四編は問ひに答へる六つの解答を添へ、更に文藝時評六章を第五編に加へてゐる。

眞に上梓された著者の「日本人のこゝろ」と共に本書は近來の好エッセイ集としてその興味は津々として盡きない。東洋と西洋の精神は著者の流麗な筆致に乗つて見事に展開されてゐるが、茲に私達が注意しなければならぬことは日支文化の眞の交流と東洋を代表する日本の文化的主動力の養成は支那文化を四千年の歴史を通じて現代に生かし、更に印度文化をその心に體得し、我々がそれを確認することを前提としてのみ可能であり、それこそ現代日本に課せられた最も重大且つ困難な文化的使命であると言ふことである。

新東洋の新たな文化的建設はこれ等の文化の綜合と融合を経てこれを取捨選別した統一體とし、これを西洋精神の洗禮を享けた日本文化に融合せしむることに依つて初めて完成されるものであり、新東洋の文化の建設に與る知識人はその直接的と間接たるを問はずこの過程に於ては彼等が固有する悪しきを捨て印度に就き、或は支那につき、長きを生かして東洋世界の糧とする謙虛な心構へこそ肝要であり、かような文化的陶冶の捨石に執着があつてはならない。

(岩波書店刊 定價二、〇〇)



學内報

第三學期授業終了と卒業進級試験日割

部科別 授業終了 試験期

大	第三學年	一月廿五日	自二月廿五日
學	第一、二學年	二月十日	自二月廿三日
豫	第一豫科三年	二月廿五日	自二月廿三日
科	第二豫科二年	二月廿五日	自二月廿三日
部	第一豫科一年	三月四日	自二月廿七日
部	第二豫科一年	三月四日	自二月廿七日
部	第一、二學年	二月廿五日	自二月廿三日
部	第三學年	一月廿五日	自二月廿五日
部	第一、二學年	二月廿五日	自二月廿三日
部	第三學年	一月廿五日	自二月廿五日
部	第一、二學年	二月廿五日	自二月廿三日
部	第一、二學年	二月廿五日	自二月廿三日
部	第一、二學年	二月廿五日	自二月廿三日

四方拜賀式

皇紀二千六百年を迎へて、本學に於ては夫々千里山、天六の兩學舎講堂に左の通拜賀式を舉行、皇國の歴史の悠久と現時の危局を思ひ一層の奮闘を期するところがあつた。

一月一日午前九時半 千里山豫科講堂
午前十一時 天六學舎講堂

專門部文學科國漢科

國語學力試験

中等教員の無試験檢定を有する專門部文學科國語漢文專攻科に對して二月七日午後六時より九時迄の間、同科生徒の國語學力檢閲が行はれた。

海軍軍事教習

千里山學舎で開催

多難の國際情勢と太平洋問題を巡り學生間に多大の關心を集めてゐるので、一月廿四日午前と午後にわたり本學千里山學舎に於て松江海軍人事部長東郷二郎大佐の講演があり、學生に多大の感銘を興へて頗る盛會であつた、因に同日の題目を示せば次の如くである。

午前 「太平洋と日米兩國」
午後 「國勢と海上權」

耐寒訓練實施

本年度耐寒訓練は大學豫科、專門部一部全生徒に對し行はれ、豫科は二月一日興亞奉公日行事として寒風をつけて池田箕面方面に行軍を行ひ全員元氣よく歸學又專門部一部では二月四日より八日まで

五日間午前七時半校庭に集合、八時半迄澁川公園に體操を實施した。

人事異動

依願解職 臨時教職教師 河野初市
兼生徒主事補 關谷忠二
任臨時教職教師 兼生徒主事補

上田廣藏講師逝去

專門部講師として民事訴訟法を講じられて居られた上田廣藏氏(昭九專一法卒)は舊臘二十六日病氣療養中御逝去せられた。二十七日葬儀が執行せられた。尙遺族は豊能郡南豊島村原田(長男)正浩氏

西田講師逝去

學部に東洋哲學特殊問題、專門部に漢文を講じられてゐた浪速高校教授西田長左衛門氏は去る二月一日狭心症により急逝せられた。遺族は豊中市櫻塚元町五ノ五五(嗣子)秀雄氏

かくぼう抄

▽武藤 勇氏(元配屬將校)歩兵少佐
北滿警備に、ノモンハン事件に出動
昨夏より中支戦線の部隊長として武功を樹てられ今回福知山市中部第六十三部隊附に轉補せられた。
▽森川 太郎氏(教授)吹田市千里山竹園町一番地に轉居。
▽島山 道雄氏(圖書館天六分館主任)休職病氣療養中の處一月十日逝去

戰線

だより

中支 北郷慶良

輝く皇紀二千六百年をこゝに目出度く迎へ、懐しい母校の思ひ出新たに遙か中支の戦線より第一信を差上げます。
其後は皆々様相變りませす夫々の御職務に御勉勵の事と存じます。御蔭をもちまして私も益々志氣旺盛にて軍務に精勵致し居ります、御安心下さい。
内地も今頃は二分寒くなつた事でせう。然し新體制下の銃後の事、寒さなどは吹き飛ばして張切つてゐる事と想像します。こちらも本年は比較的平穩裡に新年を迎へる事が出来ました。
名物の様になつて居ります蔣介石の冬期攻勢も、我軍の見事な機先作戦に粉碎され、全く手も足も出ぬ有様です。約二軒の前方に堅固な陣地を布ひて我が軍と對峙してゐた敵も、數回に亘る討伐で今は遠く撤退して影も形も見えませぬ。
然し感心な事に彼らも盛に便衣を着用に及んで我軍の動靜を窺ひつゝ、今では野犬の宿と化したトーチカや防砲壕の陰から發砲して見たりして居ります。平穩なる中にも一寸の油斷も出来ない状態です。こゝした生活が幾年續かうと、これが大東亞建設の礎ともなるものなれば我々の勞苦は未だくゞ足りぬものと思つて居ります。

× × 校 友 × ×

第三回月例講演會

本月廿五日開催

昨年十一月に初まる本會月例講演會は来る二十五日午後六時その第三回を大集編輯總務布施勝治氏を招聘して本部大集會室に開催豫定と決したが、昨年二回に渉る同講演會は佐々木惣一、石川與二兩講師の卓越な御意見と當事者の特異の企畫的妙味を以て校友間に多大の感銘を與へ、遠く戦線各地からも絶讃をなげかけられて来たが擔當諸氏の一層の努力によつて今回講師を前記布施氏に委嘱し「歐洲變亂とソ聯」の演題の下に校友の一般的認識を昂揚する資として多數出席者を得んと望んでゐる。因に布施氏は大毎特派記者として最近歐洲動亂の中より歸來せられ、特にソ聯通として民間に重きをなして居られる事は衆知の通りである。

關東州支部

秀麗會の記

第五十五回例會、吉村君壯行會

十一月九日いつもの海務協會で開催された例會は、十八日の例會が吉村君（大連商工會議所勤務）の入營歸省のため繰上げられた、十一月は年度末を控へて何かと忙がしいので幹事の計ひで斯う極めたのだが、はがきが間に合はなかつたので電話で通知した、それにも拘はらず多數の會員諸君が御會同下された事は吉村君の並々ならぬ日頃の御盡力への感謝のあらはれでもあると思ふ。

定刻豫定の顔振れも揃つたので、竹若君起つて挨拶を述べ壯行の辭に代へれば吉村君幾々決心を披瀝して謝辭となす、室山、秀島兩氏による國旗の寄書贈呈式を了り學歌齊唱八時散會した。

因に吉村君は十一月十三日鴨綠丸で出帆された。當日の出席者左の通り。

- 主賓 吉村清一君
木村、室山、秀島、濱島、加來、萩原
早川、黒田、武笠、貴村、荒川、寺田
竹若の諸君。

皇紀二千六百年の

最終國都會開く

皇紀二千六百年も餘す所旬日に押迫る師走の十二日新京支部例會を五色街新築料亭「邦樂」に開く。

少々定日を繰上げた國都會の歳末例會も、本年は特に會員諸氏の歳末出張やこの佳き歳を故郷で送るべく歸省される人々も多く、集つた人数は少々物淋しい様だが、會場が國都の官廳街に一際異彩を放つ話題の種「邦樂」であれば却つて元氣で意義深き歳の瀬のこの會合を満喫した。

零下二十度の定刻に勢揃ひすれば、誰の聲やら「飲まう」の開辭で始まつた。無禮講の飲み放題に酔のテンポで話題は

次から次へと巡つて行く、小虎のをらぬこの酒盛は議論をたふかはす、歌が飛び出す、踊を踊る學生氣分で大陸校友の意氣は高らかだ、議論も飽きたし踊にも疲れた頃、誰のリードでか自然の秀麗……が始まる、大虎連も肅然として合唱、盛會裡に會員相互の激勵の叫びと共に記念すべきこの年の最終例會を目出度終了した。

- 出席會員 志岐、桑島、西村、江崎、
岩崎、佐藤孝、内田、太郎長、古川、
佐藤丈（以上一〇名）

第三回總會開く

京都府支部

新世紀を劃する皇紀二千六百年一年を迎へて國民の協働が一層叫ばれてゐる折、京都府支部ではその第三回總會を一月廿五日午後一時より天下の名園聖蹟槇殿に於て開催、折柄凜烈たる寒風を冒し來り會するもの卒業校友二十三名、特別校友四名で左の次第により會を運んだ。

- 一、開會 二、皇居遙拜 三、皇軍將士への感謝の黙禱 四、教育勸語捧讀
五、學歌齊唱 六、會務報告 七、講演
八、座談會 九、閉會

特に講演は母校校長、京都支部長の神戸正雄博士によつて「我が國經濟機構ノ將來ト帝國外交ノ前途」と題し、約一時間半に亘りなされたが、貴重な内容に一同認識を新にし感銘を大にした。

會務報告中當支部當日現在の會員數は特別會員（教職員）五十四名、一般校友

殆ど餘暇とてない一線警備の寸暇を偷んで走書しました。（後畧）
一月二十九日

- ▽……………△
南支 澤山 勝
（昭七大法）

拜復 光輝ある皇紀二千六百年一年を迎へられ各位には愈々御隆昌之段奉大賀候御多忙中を感々年頭御挨拶を賜り衷心感佩、厚く御禮申上候。以御蔭小生等至極元氣にて軍務に服し居り候間乍余事御放念被下度候。專二卒ラグビーの白井茂君、相撲の強剛たりし西良源治君共に屋根を同じく致し居り候。三名彌々固き結束をなすと共に大いに關大精神の發揮、以て御奉公の誠を致可候。終に臨み各位の彌々御健康を祈上候。先は御禮旁々御挨拶まで如斯御座候敬具

- ▽……………△
南支 石橋 武
（昭七大法）

校友會に於ては何彼と國內新體制に沿ひて御活動致されつゝある事とお察し致します。當方面に於ても校友の噂を誰かある彼が居ると互になつかしみ會つて居ります。松葉徳三郎君等も當地にて初めて會ひました。先輩後輩と割合に居るものです、一同元氣に張切つて御奉公致して居ります。御安心下さい。

年詞の御禮まで 匆々

一六九名であるが、當日出席された特別校友は神戸正雄、佐々木惣一、小山慶作、新町徳之の諸先生で茲に謹んで敬意を表する次第である。

出席者(敬稱畧)

- 神戸 正雄 小山 慶作 佐々木惣一
- 新町 徳之 神屋敷民藏 荒賀 勝平
- 越知 元二 北野 重治 栗森 清
- 澤田 善次郎 田中 茂 田中 保幸
- 竹中 倍次郎 中野 一雄 西垣 友夫
- 平田 親勲 藤田百太郎 牧山 儀平
- 松室 忠夫 松本 健吉 三木 盛雄
- 山内 朝登 山口多賀藏 山本 佐一
- 湯淺 清一 吉田 重雄 西野 富藏

新事業を擧げて

朝鮮支部活躍

一月例会開催

一月廿九日午後六時より京城半島ホテルで開催された朝鮮支部一月例会は二六〇一年の新春初顔合せであるが、その中には新しい顔ぶれも見えて頼もしい、先づ岡本顧問の挨拶に始まり、新會員の紹介があつて續いて左記事項を決議、熱烈な母校愛の意氣を示してゐた。

- 一、神宮参拜
- 二、出征兵士に慰問状
- 三、鮮満支部の連絡
- 四、其他支部との連絡
- 五、支部名簿
- 六、入營壯行會

あとは團草を圍つて懇談となり、時局談、財界談等に花が咲き九時散會、豊作の微笑いはれる粉雪の中を三々五々解散した

出席者(卒業年度順)

- 信田 芳 岡本 至徳 松田 清
- 高橋 伊平 野田 博 三上 吉隆
- 山田 壽雄 岸本 忠雄 藪田 二郎
- 田中 豊次 桂 定一 吉本 肇
- 黒田 一男 藤山 正己 川島 通利
- 越智 宗七 宮川 三郎

同窓隣組第三回例會

一月二十七日、大和田署長織田佐代治氏の警視昇進を祝賀し、關大を母體として結成された隣組の第三回會合を催した。會の結成について努力された中井淳一、上田虎彌大、岸田駒太郎三氏の挨拶について主賓織田氏の謝辭あり、大いに親睦を厚くした。集る者全招待者中九〇パーセント、大阪時間を訂正して正刻に全員集合、稀に見る愉快な會合であつた。本會は、回を重ねること三回に亘るが、未だ會名を持たない。それは、本會の結成精神に基き最も意義ある會名にしたい希望に外ならぬ。

岸田駒太郎氏の挨拶、中井淳一氏の閉會の辭に代る挨拶(格式張つた閉會の辭は、本會結成の精神から永久にない)も亦同様であつた。こゝに本會の特色があり、當日の會合も、右三氏の挨拶に表れた如き、誠に和氣霽々たる會合であり、一同學歌齊唱裡に散會した。

- 織田 佐代治(大和田署長警視)
- 徳竹 要(刑事課警部)
- 北田 康民(監察課警部)
- 木村 恂三(朝日橋警部)
- 佐伯 三郎(關大教)

授)中井淳一(中井商店)井上軒、松村勲

- 次、榎本信雄、上田清(以上辯護士)
- 天宅俊治(特高課警部)
- 大泉三郎(警防課警部)
- 上田虎彌大(日本簡易火災)
- 上田三治(大朝)
- 竹谷謙貴(築港署警部)
- 喜多好平(喜多本店)
- 鎌田義一(鎌田組)
- 岸田好太郎(共榮會社)
- 竹田繁七(大鐵)

甲戌俱樂部(昭九專一法)

二月 例會

六日心齋橋森永にて開催、成立以來相互の親和と向上を目指し少人数ながらも中斷する事なく會合を重ねて來た吾俱樂部は、今年に入つて益々其の目的に向つて邁進すべく各位の意思の一致を見有意義なる新春の第一歩を踏み出し、凡ての點に俱樂部を實質的存在へと進展せしむべく活動を起す事となつた。當日相集ふ者晚餐を共にしつゝ、豊富なる話題に談笑盡きず和氣霽々裡に一時を意義深く送る。昨冬暮上田廣藏君急逝され惜みて餘りある痛恨事であつた、常に多忙の一時を割いて俱樂部の爲め指導的に御盡力下されし同君の靈に對し一同安かなれと祈る。上田君と共に俱樂部の中心たりし堀本周三君今般東亞煙草に轉職の爲め上京せらるゝ事になり、爲めに本年度の世話役を川本、佐藤、藤田の諸君に願ふ事になつた。當日の出席者は

- 佐野 榮二 佐藤 一夫 松本伊右衛門
- 川本 正己 白井 証生 府中 政吉
- 藤田 令充 堀本 周三 奥田 甚一

會員 消息

發行が遅れてゐました昭和十五年度校友會員名簿は本月末出来上りますから三月月上旬には發送致します。然様御諒承下さい。

- 池上 博(昭十五專二商) 豊能郡中豊
- 島村服部平和莊に轉居
- 石井 隆男(昭十一大法) 臺灣總督府專賣局神戸出張所に轉勤、住所は神戸市灘區鹿ノ下通四ノ七、柏原方
- 石田 稔(昭十二專二商) 南區南新町二ノ二一、日本貿易振興會社に勤務
- 今岡 琢磨(昭十 大法) 神戸市役所稅務課より同區役所稅務課へ轉勤
- 岩崎 弘(昭八專二法) 大阪瓦斯會社に勤務、住所は港區桂町二ノ三一
- 岩本 信正(昭八專二法) 昨年末檢事に任官、神戸地方裁判所姫路支部檢事局兼姫路區裁判所檢事局に勤務、住所は姫路市農人町、大石旅館内
- 岩脇 明光(昭八 大政) 行唐縣公署より完縣公署へ轉勤
- 小澤 祐二(昭十二大法) 濟南市經七路緯一路瑞梧里八號へ轉居
- 大岐 榮(大九 專法) 大阪組專務取締役に就任
- 押谷 忠之(昭十 大法) 豐中市北刀根山七四に轉居
- 勝部嘉久藏(昭八 大法) 南河内郡國分村字新町に轉居

茅原 恭平 (昭十四專二商) 旭區内代町 一四三に轉居
 川井幸太郎 (昭十專二法) 尼崎市神田北 通九ノ二四四、松壽園に轉居
 川崎 多一 (昭六 專法) 滿洲電信電話 會社奉天管理局人事係長より海洲電報 電話局長に就任
 河合 源一 (昭八專一商) 靜岡縣田方郡 三島町北口へ轉居
 河相 保知 (昭十二專二法) 奉天市大和 區信濃町二二ノ一ノ二に轉居
 木戸準一郎 (昭十五大法) 中部第七十三 部隊に入營
 木村源之助 (大二 專商) 京都府乙訓郡 西向日町に移轉
 北村 繁幸 (大十四專法) 應召解除、旭 區赤川町一〇五に住居
 黑崎 望人 (昭十五大法) 滿洲國通化省 公署官房人事科に勤務、住所は同省通 化縣龍泉區四ノ一六
 倉田 松夫 (昭九專一法) 濱田西部第三 部隊川上隊に入隊、留守宅東京市大森 區入新井六ノ一三
 後藤 幸重 (昭六 大法) 東區南本町四 織維製品輸出振興會社に勤務
 坂田 孝 (昭六 專法) 鹿兒島市築町 五、東洋金屬會社に勤務し同市平之町 六八に住居
 柳原 義三 (昭十二專二商) 旭區今市町 一〇五三に轉居
 柴田 士 (昭十三專英) 名古屋市熱田 區澤上町一ノ四二杉山方に轉居
 田中 進 (昭十一專一法) 陸軍經理學校 卒業後東部第五十部隊附に補せられ松 本市堂町五二五に住居す

田村 格治 (昭四 專商) 尼崎市今福、 東洋紡績神崎工場に轉居
 高見 秀雄 (昭十二專二法) 召集解除、 神戸市教育部兵庫防衛課に勤務
 谷口 晃 (昭十三專一商) 西部第八十 四部隊に入隊
 谷口 弘 (昭六 專英) 朝鮮無水酒精 會社に勤務、住所は新義州雲井町九ノ 八
 鳥越 進 (昭四 專法) 鐵谷工作所に 勤務、住所西淀川區海老江上四ノ一九

野村 良輔 (昭十二專二法) 召集解除、 廣島市東蟹屋町入ルに住居
 馬場 盛一 (昭十一大商) 北京内一區船 板胡同四三、田中源太郎商店北京出張 具事務所へ轉居
 福居 順一 (昭九專二法) 東京市杉並區 和泉町一三四
 藤田 秀吉 (昭五 專經) 東區島町一ノ 二に轉居
 藤田 茂雄 (昭十專一商) 新興土地建物 會社より山陽電氣鐵道會社へ 轉勤
 藤田 哲 (昭十五大法) 兵庫 縣武庫郡長元村伊子志山畑二 五ノ一に轉居
 藤田 藤一 (昭十二大法) 興安 北省額爾克納大翼旗參事官兼 國境警察隊長として勤務
 文昌 旭 (昭十二專二商) 岩 本と改姓朝鮮平安北道江界稅 務署に勤務
 細谷 正士 (昭十一專一商) 召集解除、 日本カーバイド工業會社に就職、住所 東京市澁谷區羽澤町四九家田金五郎方
 星川 清典 (昭十二專一商) 召集解除、 尼崎製鋼所に勤務、住所は天王寺區細 工谷町一〇九高橋方
 麻那古誠介 (昭十二專一商) 應召、留守 宅は臺北市大正町一ノ二二麻那古誠介
 牧野 成道 (昭十五專二法) 玉造稅務署 より伏見稅務署に轉居
 松本 義貞 (昭十五專一法) 吹田市片山 藤ヶ丘一〇三に轉居
 丸野 智 (昭九 大法) 旭區野江西之 町三ノ一六五に轉居

丸山 新一 (昭九 大法) 北河内郡三郷 町大枝一八三に轉居
 三宅 其孝 (昭十三大法) 興農合作社中 央會より吉林商工金融合作社へ轉職
 滿田清四郎 (大九 大法) 廣島控訴院判 事より松山地方裁判所部長判事に就任
 松山市外道後湯之町石手に轉居

逝 去

渡邊 正策 (昭十二專二經) 昨年十二月 一日逝去、遺族は岐阜縣吉井町上古井 渡邊清一殿 (父)
 上田 廣藏 (昭九專一法) 十二月二十六 日逝去、遺族は豊能郡南豐島村原田六 六四、子息正浩殿
 林茂藤次郎 (昭四專法) 昨年十月十二 日逝去、遺族は兵庫縣有馬郡有馬村唐 櫃、林いゑ殿
 山田 久夫 (昭八專一法) 十一月二十日 午前一時逝去

改 姓 名

昭十二專二商 文・昌 旭 岩本
 昭十四專二法 村井 隆太郎 青野
 昭十四大經 李 孟 允 淺香 毅
 ○先般堺市會議員選舉に於て左の三氏が 芽出度當選せられた。
 補野 泰夫君 (大八 專法) 辯護士
 太田 周市君 (大一一專法) 辯護士
 井上專一郎君 (昭二 專法) 洋服商
 ○若屋市市政實施に伴ふ第一回市議院に 於て、中田重介君(舊姓名林利作、大十 三專法)は最高點にて見事當選された。

辯護士 西本寬一著 【内容見本進呈】

新刊

新株式會社定款論

菊判上製函入
定價 四圓八拾錢
送料 貳拾錢

新法による唯一の株式會社定款論出づ！

本書は會社法専門家たる著者の豊富なる體驗によつてあらゆる問題に對しあらゆる角度から精細刺すところなく論じ盡された責任ある良心的の勞作である。株式會社の實際的理論は本書によつて初めて解明されたといつても敢て過言ではない。殊に豊富なる文例及び附録書式と相俟つて最も完備された株式會社設立案内書といふことが出来る。學者實際家のいづれを問はず、殊に公證人・辯護士・計理士・司法書士にとつては缺くべからざる必讀書である。

同じ著者により

- | | | | |
|------|-----------|------------|-------------|
| 好評再版 | 新會社法論 | 菊判上製
函入 | 定價
貳拾錢 |
| 好評三版 | 改正商法解説 | 菊判上製
函入 | 定價
參圓八拾錢 |
| 好評 | 株式會社重役論 | 菊判上製
函入 | 定價
貳圓八拾錢 |
| 好評 | 株主總會決議無效論 | 菊判上製
函入 | 定價
貳圓五拾錢 |

關西大學學報 第百八十六・七合併號 (昭和十六年二月十五日發行)

株式會社 大 同 書 院

前學大央中臺河駿京東
番八三二一八京東替振
番八二二二田神話電

道新田梅區北阪大
番二七九一三
番二七五六一
番二二二二五
番番番番番
北北北北北
語語語語語
電電電電電